

わたしたちのくらしと税をつなげる ～ 消費税率について考える ～

山形市立第二小学校教諭 6学年 遠藤 裕美

実施年月日：平成29年1月12日～18日 31名

1 実践計画・指導のねらい

子どもたちは生活の中で税を意識することも、自分とのつながりを考えることもなかった。事前に子ども本人や家族へのアンケートを行ったところ、「めんどろ」「高い」「払いたくないが仕方がない」など、どちらかというマイナスイメージの声が聞かれた。そこで、住民や会社などから集められた税金によって住みよい町が作られ、生活や社会が支えられていることを知り、身近なものであることを実感させる。そして、子ども達も払っている消費税率が上がることに賛成か反対か理由をつけて話し合うことにより、自分ごととしてとらえられるようにする。日本の将来と重ねて「消費税」を考えることによって、これからの「税」について社会の一員として意識するきっかけとなると考える。

2 単元構成・実際の指導状況 (単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導)

時間	学習内容	主な発問 (○)、子どもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・山形税務署の方の話を聞き、税金とは何か、どんなことに使われているのかを知る。	<p>税金ってなんだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ●橋や道路、信号も、教育、消防の仕事も全部、税金が使われている。税金は気づかないところで暮らしを支えている。 ●税金がなくなると、治安が悪くなって、みんなの生活が苦しくなったり、不便になったりするんだと思った。 ●税金はみんなのために集めて、みんなのために使っている。 <p>□DVD「マリンとヤマト・不思議な日曜日」</p>
2	・市民の願いを実現するために税金が果たす役割について考える。	<p>住みよい町を作るために税金が果たす役割を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ●税金は様々な方法で集められていて、種類もたくさんある。 ●全部集めたら、いくらくらいになるのかな。 ●税金はみんなのための「公共事業」に使われている。

【指導のポイント】《1時間目》

ゲストティーチャーによる、専門的な話を聞くことで、税について興味・関心を持たせる。
自分たちの生活は、知らず知らずのうちに税金に支えられていることを実感することができた。



「本当だ。教科書には税金が使われているって書かれているよ。」

時間	学習内容	主な発問 (○)、子どもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)										
3	<p>・「消費税10%」増税に賛成か反対か考える。</p> <p>平成28年度 国税・地方税</p> <p>国税庁 ホームページより 税の学習コーナー 「税の将来はどうなるの」</p>	<p>31年10月から消費税は10%に。あなたは賛成？反対？</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>賛成</th> <th>反対</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○お金を多く払うのはいやだけど、「少子高齢化社会」になることを考えたら仕方がない。</td> <td>●10%は負担が大きすぎる。使えるお金が減る。</td> </tr> <tr> <td>○払った分、社会が豊かになるなら2%上げてもいいと思う。</td> <td>●社会全体の景気が悪くなったら、所得税も法人税も少なくなる。結局、買い控えて消費税だって集まらなくなってしまうかも。</td> </tr> <tr> <td>○消費税は子どももお年寄りもみんなで負担するから、平等なのでいいと思う。</td> <td>●消費税は平等だけど、稼いでいる人も、そうでない人も、お年寄りもみんな同じように消費税を払ったら大変になる。</td> </tr> <tr> <td>○全員で負担しないと、税金が足りなくなりそう。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>□参考資料 国税庁 ホームページ 税の学習コーナー「税の将来はどうなるの」</p>	賛成	反対	○お金を多く払うのはいやだけど、「少子高齢化社会」になることを考えたら仕方がない。	●10%は負担が大きすぎる。使えるお金が減る。	○払った分、社会が豊かになるなら2%上げてもいいと思う。	●社会全体の景気が悪くなったら、所得税も法人税も少なくなる。結局、買い控えて消費税だって集まらなくなってしまうかも。	○消費税は子どももお年寄りもみんなで負担するから、平等なのでいいと思う。	●消費税は平等だけど、稼いでいる人も、そうでない人も、お年寄りもみんな同じように消費税を払ったら大変になる。	○全員で負担しないと、税金が足りなくなりそう。	
賛成	反対											
○お金を多く払うのはいやだけど、「少子高齢化社会」になることを考えたら仕方がない。	●10%は負担が大きすぎる。使えるお金が減る。											
○払った分、社会が豊かになるなら2%上げてもいいと思う。	●社会全体の景気が悪くなったら、所得税も法人税も少なくなる。結局、買い控えて消費税だって集まらなくなってしまうかも。											
○消費税は子どももお年寄りもみんなで負担するから、平等なのでいいと思う。	●消費税は平等だけど、稼いでいる人も、そうでない人も、お年寄りもみんな同じように消費税を払ったら大変になる。											
○全員で負担しないと、税金が足りなくなりそう。												

【指導のポイント】《3時間目》

前時までは「税金はみんなの暮らしを支えるために必要」という肯定的な意見が出された。しかし、実際に消費税率が10%に上がることには賛成、反対と考えが分かれる。まず、賛成反対の立場をはっきりさせ、その後、消費税の歴史、消費税のメリット、デメリット、これからの日本で予想される「少子高齢化社会」など、判断する材料となる資料を提示した。子どもたちは、もう一度考えて賛成か反対かを決めて、理由も発表するようにした。

消費税率10%になる！
あなたは 賛成？反対？

理由

賛成

反対

ファイナルアンサー

理由

賛成

反対

税について学習して

3 実践の成果 (◎) と課題 (◆)

- ◎ 「消費税率10%」について考える学習は、「税金が必要なのはわかるけど消費税を払うとお金が減ってしまう。」という子どもの本音とともに、「少子高齢化社会」という、これからの日本のことを考える立場での葛藤が見られた。答えは出せなくても、「社会の一員」として考えることができたことは有意義だった。
- ◎ 国税庁のホームページの資料がとてもわかりやすく、学習にとっても有効だった。2050年には高齢者一人を20才から64才の現役世代が1.2人で支えるという数字がより現実的で、子どもたちはさしせまった問題としてとらえ、真剣に迷い、考えることができた。
- ◆ 税に関する言葉が難しく、データもかなり多い。子どもが考える材料として、どの情報をどこまで提示するのか指導者が精選する必要がある。資料は多すぎても、少なすぎても子どもの思考の妨げになってしまうので、教材研究が大切だと感じた。